

2021 年度 公開シンポジウム

with コロナ時代における子どもたちの資質・能力を育成する 協働学習の工夫

——教科指導と生徒指導を統合するチーム学校の教育実践——

企画	：日本教育心理学会 研究委員会
話題提供	：横井武志（大阪府泉南郡田尻町立中学校） 子どもたちの協働関係を構築する教科指導
話題提供	：細川克寿（大阪市立東田辺小学校）・藤倉憲一（太成学院大学） 子どもたちの協働的学びを支える学校長の リーダーシップ
話題提供	：後藤正樹（株式会社コードタクト） ICT を活用した協働学習
話題提供	：坂本静泰（奈良市立春日中学校） 地域・行政を巻き込んだ ICT を活用した学習支援の 取り組み
指定討論	：牧 郁子（大阪教育大学）
指定討論	：田島充士（東京外国語大学）・
指定討論	：苅間澤勇人（会津大学）
指定討論	：熊谷圭二郎（神奈川県立保健福祉大学）
司会	：河村茂雄（早稲田大学）

企画趣旨：

2021 年度、コロナ問題は夏場にかけて悪化したものの、秋口からはかなり落ち着いてきた。ただ、2022 年度も予断を許さない状態である。このような中で、2021 年度にだされた『令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』（中央教育審議会、2021）では、我が国の学校教育におけるデジタル化の遅れへの対応と、新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立などが課題とされていた。2020 年の本学会の公開シンポジウムでは、300 名を超える参加者から数多くの質問や意見をいただいた。そこで 2021 年度も、コロナ禍において、感染防止策と ICT の積極的な利活用、協働学習の推進を、学校全体としてどう統合して展開していくのかを検討したいと考え、本シンポジウムを企画した。現場で実践されている方々から話題提供をしていただき、それに教育心理学・学校臨床心理学の研究者がコメントを行う形で、本シンポジウムの参加者がそれぞれの実践現場において、子どもたちの学びを促進する知恵を引き出すきっかけになればと願うものである。